

FWゼミ成果報告会 宍戸ゼミ報告資料

フィールドネットワークを通じた
共生型まちづくりの研究

報告の構成

- ① 宍戸ゼミの目的 (岡崎)
- ② 東大阪市の概況 (岡崎)
- ③ 協力機関の概要 (堀田)
- ④ 宍戸ゼミの活動状況 (堀田)
- ⑤ 社会調査の結果 (西村・堂下)
- ⑥ FWで把握した課題 (雑賀)
- ⑦ FWによる私たちの変化 (山本)
- ⑧ 今後の課題 (堂下)

東大ゼミの目的

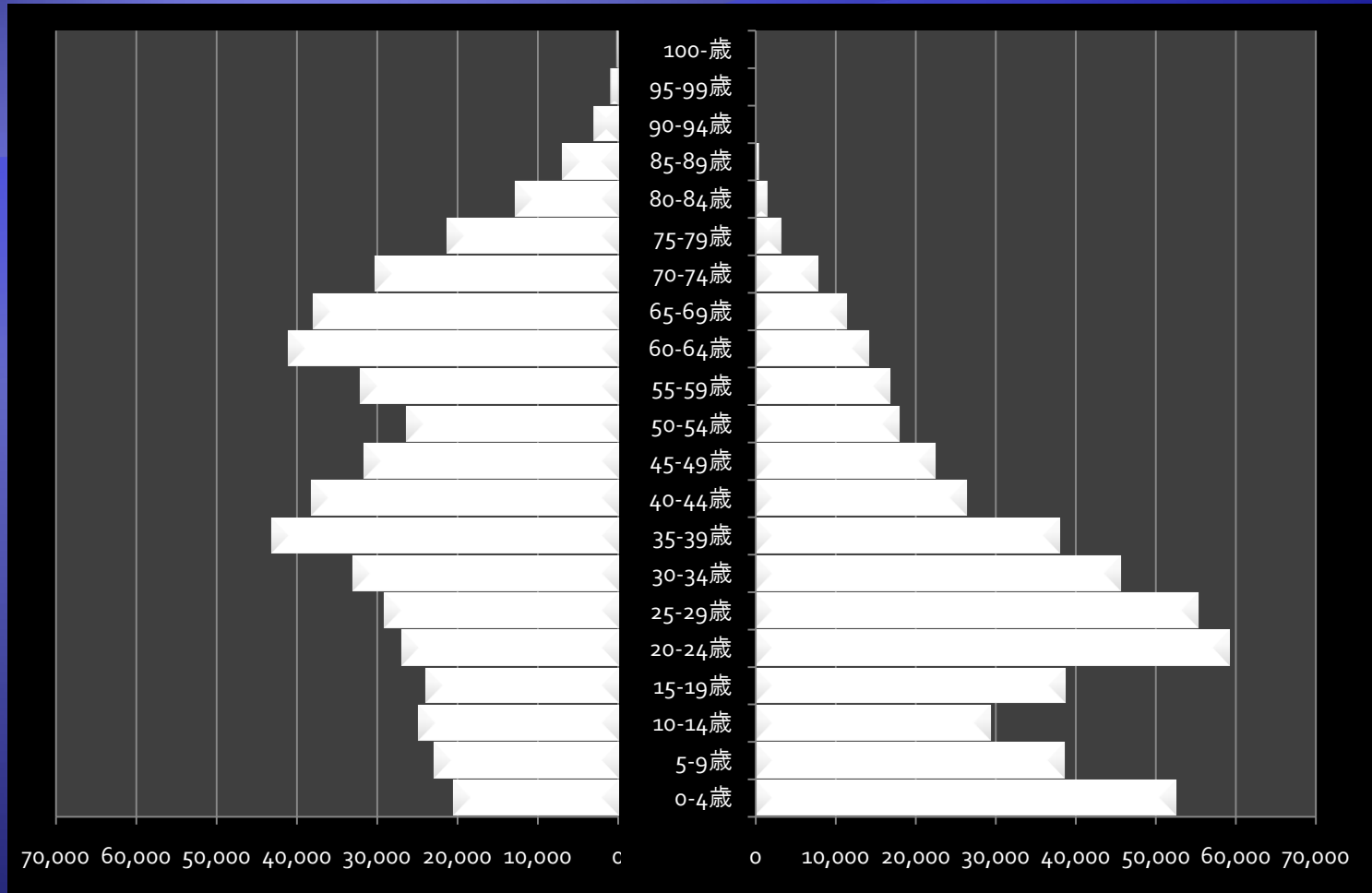
- 東大阪市のボランティアやNPOなど地域社会における市民の社会的役割に注目し、少子高齢化社会と地域福祉をテーマに研究活動を行う

- 協力機関

東大阪市社会福祉協議会「ボランティア・市民活動センター」

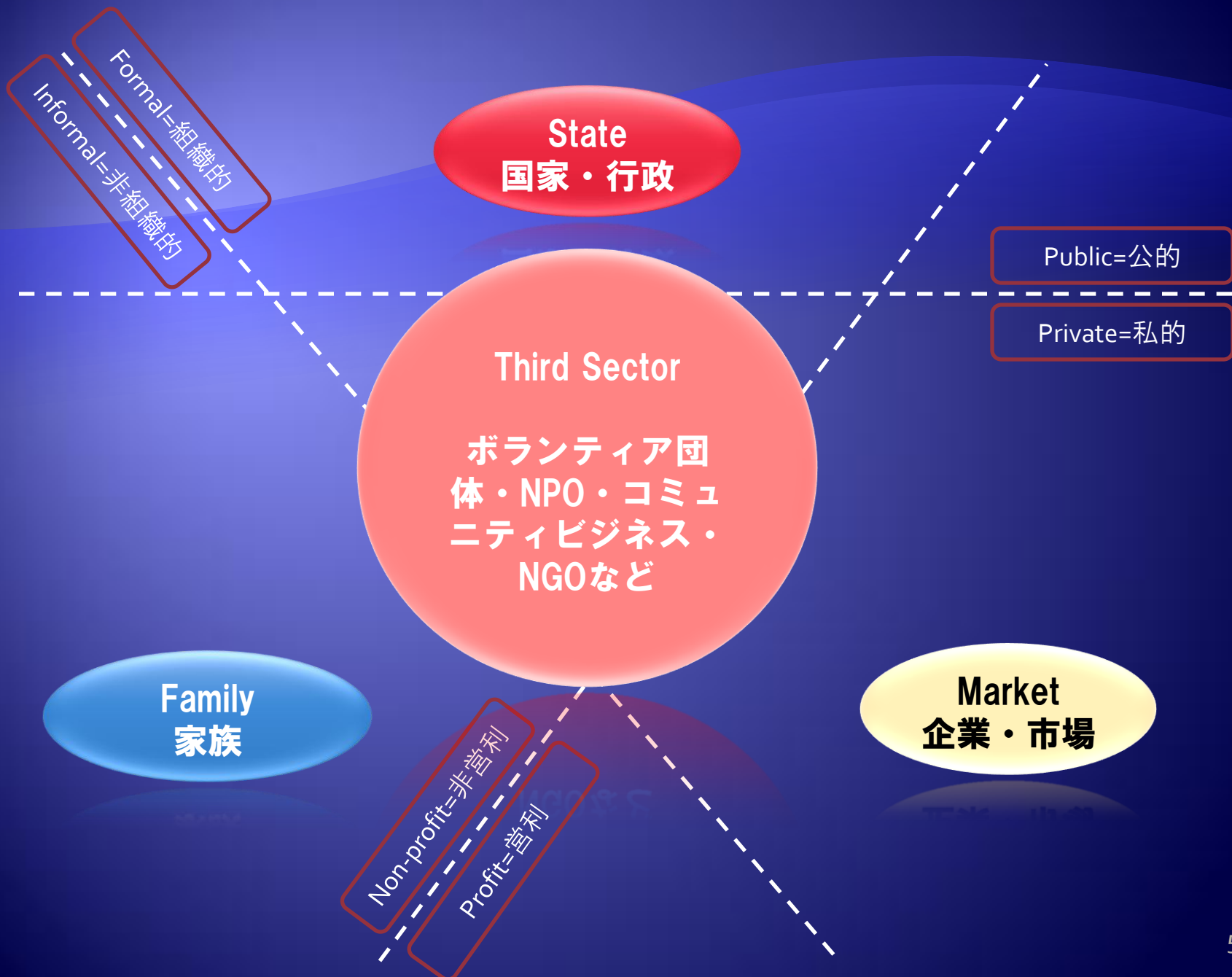
- 2年生19名が4班に分かれ、ボランティア・市民活動に参加し、現状をリサーチしている

参考：東大阪市の人口構造



2010年

1970年



主なゼミの活動

① 市民活動、地域福祉の基礎知識の獲得

- 4冊のテキストの分担報告

② 各班単位のフィールドワーク

- 各班ごとに協力団体と一緒に活動

③ パンフレット作成

- 班単位で、協力団体を紹介するパンフを作成し市民の認知度を高める

④ 地域資源のマップ作り

- 東大阪市Dリージョンの協力のもと、地域資源を可視化する試み

⑤ 社会調査の実施

- 2010年11月に東大阪市民1,500人を対象に社会調査を実施し、計量分析

⑥ ボランティア・コンテンツの企画・立案

- 若年世代や退職後の男性が参加しやすいボランティア・コンテンツの企画

東大阪市の概要

- 1967年に布施市・河内市・枚岡市が合併して誕生
- 東大阪市の総人口は50万4千人。大阪府下3番目、1,727の日本の市町村中26番目の大きな市
- 東大阪市の年少人口（14歳以下）は13.4%、老年人口（65歳以上）は22.3%（日本全体の年少人口は13.4%、老年人口は22.7%）
- 392の単位自治会、45の小学校区、26の中学校区があり、7つのリージョンに分かれている

「ボランティア・市民活動センター」の概要

1 需給調整(コーディネート業務)

- ▶ ボランティアの助けを希望している人への相談やボランティア活動希望者の相談に応じています。

2 ボランティア養成講座・研修会の開催

- ▶ ボランティアの養成講座やスキルアップのための研修会を開催しています。
- ▶ 例 ボランティア活動体験講座、東大阪ボランティア研究集会

3 広報啓発活動

- ①機関紙の発行
- ②東大阪市民ふれあい祭りへの参加
- ③ボランティア活動やNPO活動に関する情報収集及び提供など

4 活動拠点としての会場・機材等の貸出

- ▶ ボランティアやボランティアグループの活動の場としての会議室の提供や資材機材の貸し出しをしています。

5 東大阪市ボランティア基金

- ▶ ボランティア基金から生まれる利息でボランティアの相談援助や要請、ボランティア・市民活動の報告啓発を行っています。

6 善意銀行事業

- ▶ 広く市民から“善意”の預託（金銭や物品）を受け付け、これを福祉事業や福祉団体などに有効に払出を行い、地域福祉の推進のための“善意の橋わたし”をしています。

東大阪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター

ボランティア
連絡会

CSW(コミュニティ・
ソーシャル・ワー
カー)

ボランティア・サ
ロン

小地域ネット
ワーク活動



1班

2班

3班

4班

央戸ゼミ

各班の活動内容

1班：ボランティア連絡会

- 東大阪市内の30のボランティア団体が協力してできている連絡会。ボランティアの研修会、役員会、「ふれあい祭り」等に参加。ボランティア団体の代表者の方々と意見交換も行う。

2班：CSW（コミュニティー・ソーシャル・ワーカー）

- CSWは、地域において支援を必要とする人々に対し、本人を取り巻く環境を重視した援助を行う専門的知識を有するスタッフ。定期的に開かれている会合・研究会に参加。専門機関と連携しながら、問題を抱えた人々を地域のなかでいかにサポートしていくかを勉強。

3班：ボランティア・サロン

- 小地域ネットワーク活動とボランティア活動の橋渡しを目的として、年4回開催されるボランティア・市民活動のイベントに企画段階から参加。

4班：小地域ネットワーク活動

- 小学校区単位で展開されている校区福祉委員会のボランティア活動に参加。玉串校区、長瀬東校区、森河内校区の3校区における高齢者の孤立や孤独死を防ぐ喫茶活動に参加。

講義時間外のFW

no	月日	曜日	時間	関連する班(2年生)	内容	場所
1	5月6日	木	10:40~12:30	全体	力谷講師のレクチャー	大阪商業大学
2	5月9日	日	9:00~17:00	第1班 ボランティア連絡会	ふれあい祭り	社会福祉協議会
3	5月13日	木	14:00~17:00	第2班 CSW	CSW連絡会	高齢者SC
4	5月21日	金	19:00~20:30	第1班 ボランティア連絡会	V連幹事会	社会福祉協議会
5	5月22日	土	13:00~15:00	第1班 ボランティア連絡会	V連総会	社会福祉協議会
6	5月31日	月	9:20~13:00	第4班 小地域ネットワーク活動	花園校区	玉串住宅集会所
7	6月5日	土	9:30~13:00	第4班 小地域ネットワーク活動	長瀬東校区	長瀬東公民館
8	6月5日	土	12:30~16:00	第3班 ボランティアサロン	あいあいサロン	社会福祉協議会
9	6月5日	土	15:30~17:00	第3班 ボランティアサロン	企画運営委員会	社会福祉協議会
10	6月14日	月	14:00~17:00	第2班 CSW	CSW連絡会	東大阪市役所
11	6月26日	土	10:00~13:00	第3班 ボランティアサロン	企画運営委員会	社会福祉協議会
12	6月27日	日	8:30~13:00	第4班 小地域ネットワーク活動	森河内校区	森河内公民館
13	7月18日	日	13:00~16:00	第2班・第4班	資源マップ会議	リージョンセンター5F

no	月日	曜日	時間	関連する班(2年生)	内容	場所
1	8月11日	水	9:00~16:00	第1班 ボランティア連絡会	園児のお世話	むぎの穂保育園
2	8月23日	月	16:00~22:00	第2班 CSW	お祭りのお世話	アクティビティセンターひびき
3	8月28日	土	14:00~20:00	第3班 ボランティアサロン	お祭りのお世話	木の実保育園
4	8月29日	日	14:30~21:00	第4班 小地域ネットワーク活動	お祭りのお世話	若草園
5	10月2日	土	10:00~12:30	全体	ボランティアの講演会	社会福祉協議会
6	10月8日	土	12:00~16:00	全体	食生活のつどい	食生活改善推進協議会
7	10月下旬	土	11:30~16:00	第2班・第4班	玉川中学校区を散策・取材	若江岩田
8	11月28日	日	13:00~16:00	第2班・第4班	資源マップ作り	リージョンセンター5F
9	11月28日	日	10:00~16:00	第1班 ボランティア連絡会	研究会「災害とボランティア」	社会福祉協議会
10	12月4日	土	13:30~15:30	第3班 ボランティアサロン	絵手紙(年賀状)を書きましょう	社会福祉協議会
11	12月11日	土	11:30~16:30	全体	チャリティーコンサート	市民会館市民ホール
12	1月15日	土	12:00~17:00	全体	NPOと市民活動の見本市と講演	リージョンセンター5F
13	2月12日	土	13:00~17:00	第3班 ボランティアサロン	押し花コンテンツと企画運営委員会	社会福祉協議会
14	2月26日	土	13:00~16:00	全体(10名以内)	研究会「災害とボランティア」	社会福祉協議会

活動の様子（1班）



活動の様子（2班）



活動の様子（3班）



活動の様子（4班）



央戸ゼミ 社会調査の基礎的分析



社会調査の概要

調査名：ボランティア・市民活動に関するアンケート調査

対象者：東大阪市に在住の20～79歳の1,500名

抽出法：2段無作為抽出法（東大阪市内の50地点を人口規模に比例して無作為に選び、各地点の住民基本台帳から等間隔抽出法によって30名を無作為に抽出）

調査方法：郵送法

調査時期：2010年11月

有効回収数（率）：601（41.4%） ※住所不明や病気の対象者を除く

参考：対象者の基本属性

年齢層	%	n
20代	7.5	45
30代	15.3	92
40代	19.3	116
50代	16.0	96
60代	25.1	151
70歳以上	16.6	100
無回答	0.2	1
合計	100.0	601

性別	%	n
男性	49.1	295
女性	50.9	306
合計	100.0	601

学歴	%	n
中学校卒	14.1	85
高校卒	47.6	286
大学・大学院卒	38.1	229
無回答	0.2	1
合計	100.0	601

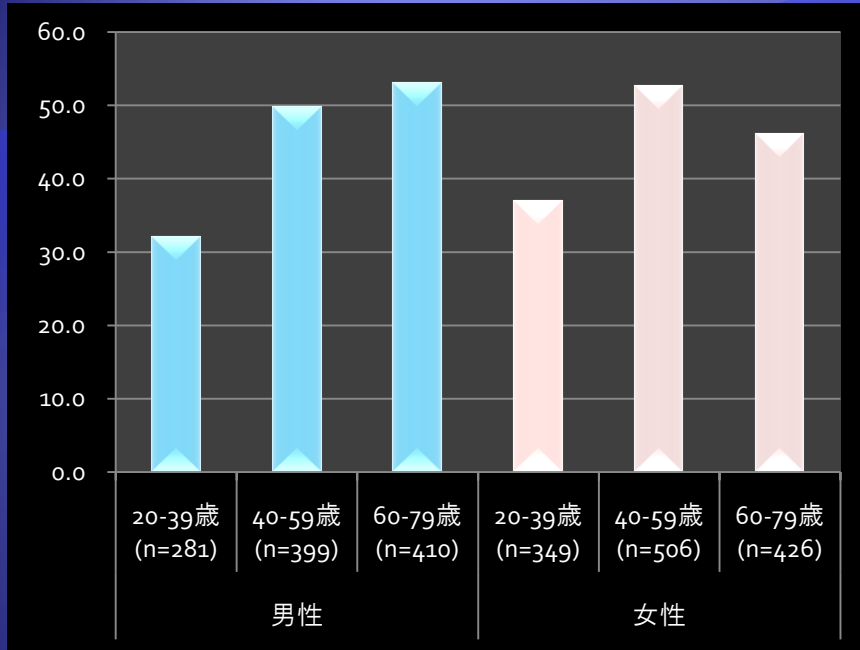
居住年数	%	n
5年未満	10.5	63
5-9年	13.6	82
10-19年	17.1	103
20-29年	16.5	99
30-39年	16.6	100
40年以上	25.1	151
無回答	0.5	3
合計	100.0	601

就労地位	%	n
自営業主・自由業者	9.0	54
家族従業者	3.0	18
経営者・役員	5.2	31
正規の社員・職員	26.8	161
非正規雇用	19.3	116
現在、仕事をしていない	36.4	219
無回答	0.3	2
合計	100.0	601

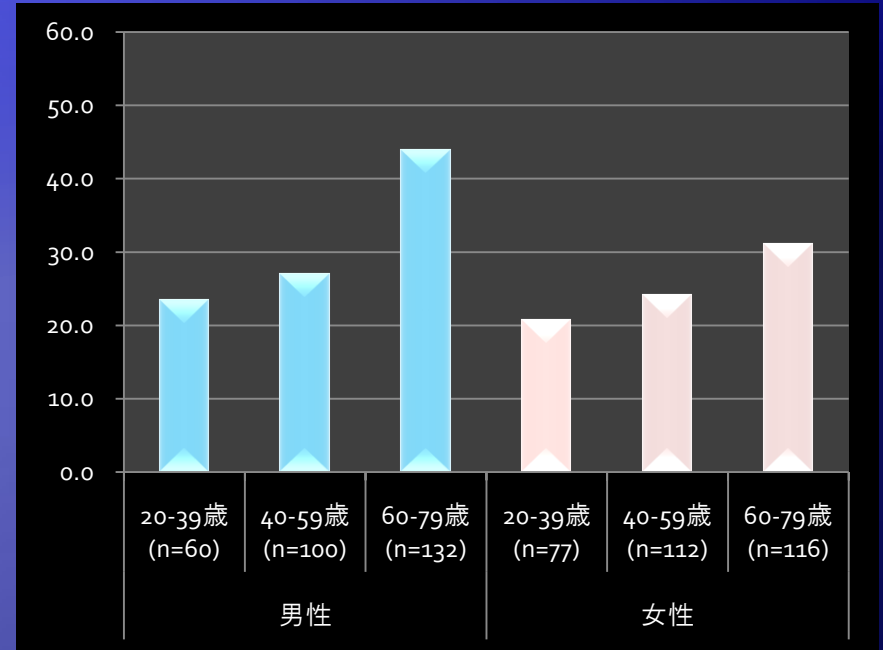
婚姻状態	%	n
配偶者がいる	71.7	431
死別した・離婚した	13.1	79
未婚	14.8	89
無回答	0.3	2
合計	100.0	601

昨年のお世帯年収	%	n
150万円未満	9.7	58
150～250万円未満	16.8	101
250～350万円未満	17.0	102
350～450万円未満	11.5	69
450～550万円未満	10.3	62
550～650万円未満	8.7	52
650～750万円未満	4.8	29
750～850万円未満	4.7	28
850～950万円未満	2.3	14
950万円以上	8.5	51
無回答	5.8	35
合計	100.0	601

東大阪市と日本全国の比較（％）



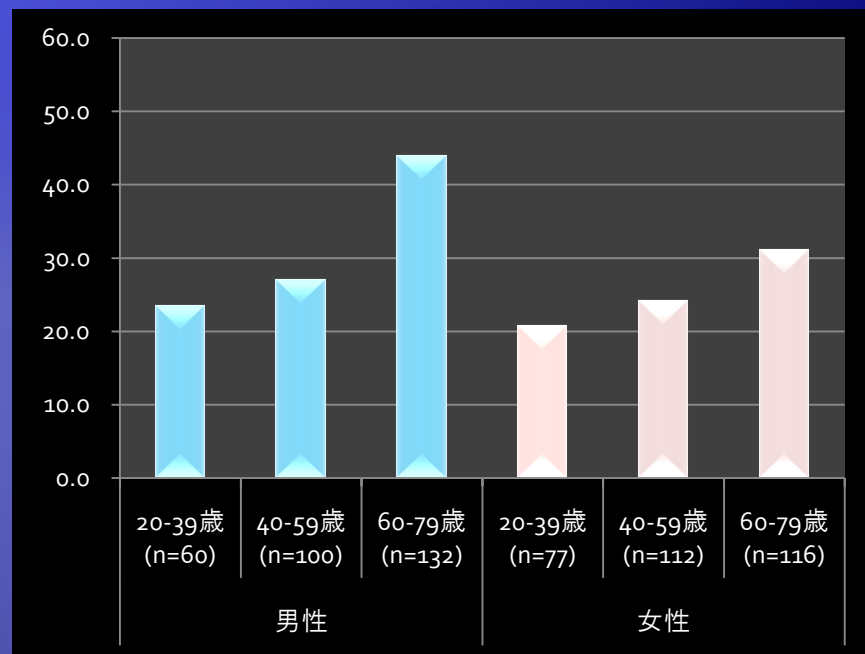
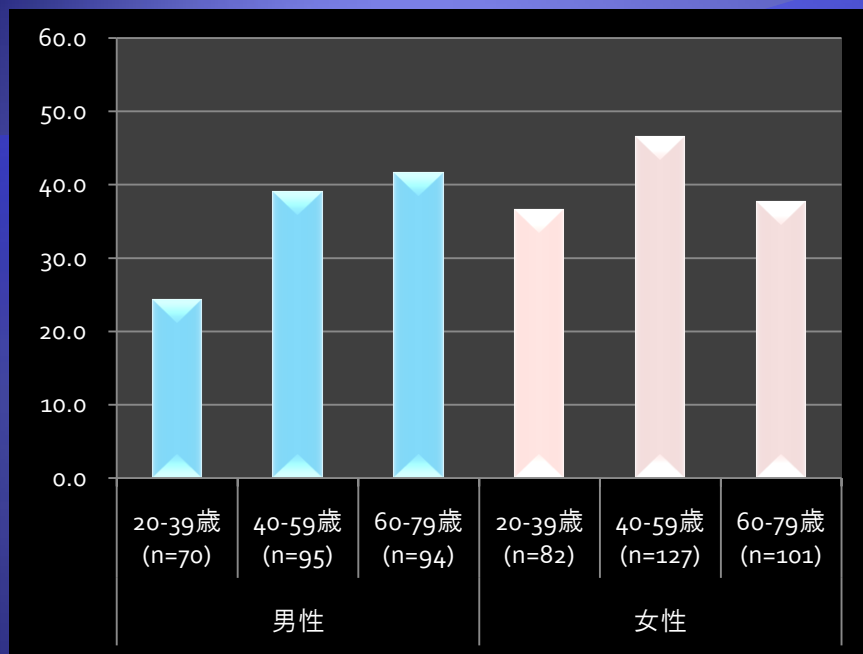
日本全国
(JGSS-2010)



東大阪市
(宍戸ゼミ調査)

- 日本全国と比較して、過去1年間のボランティア経験が少ない（全体では30%が経験あり）

参考：東大阪市と日本全国（大都市限定）の比較（％）

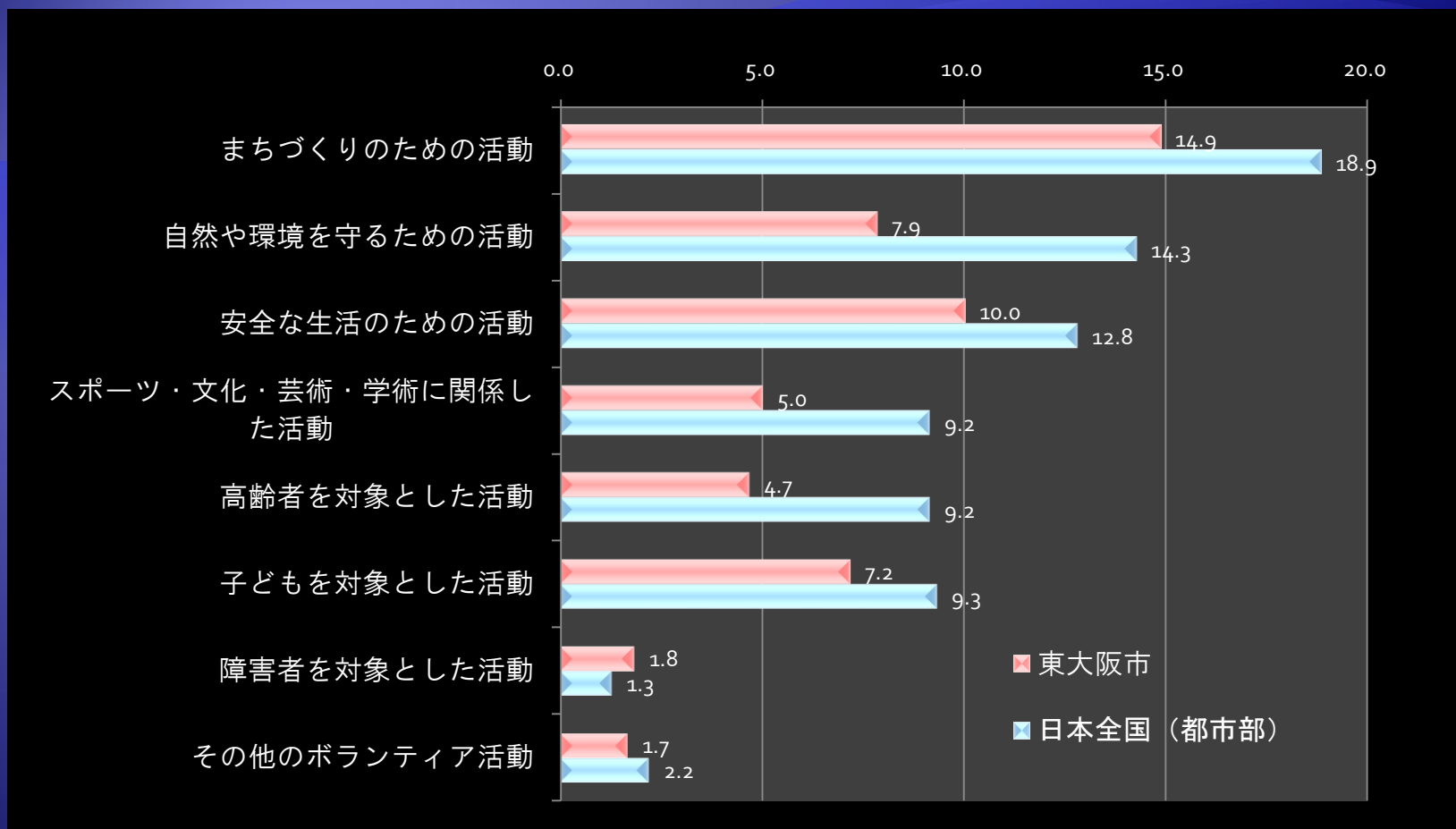


日本全国（大都市限定）
（JGSS-2010）

東大阪市
（宍戸ゼミ調査）

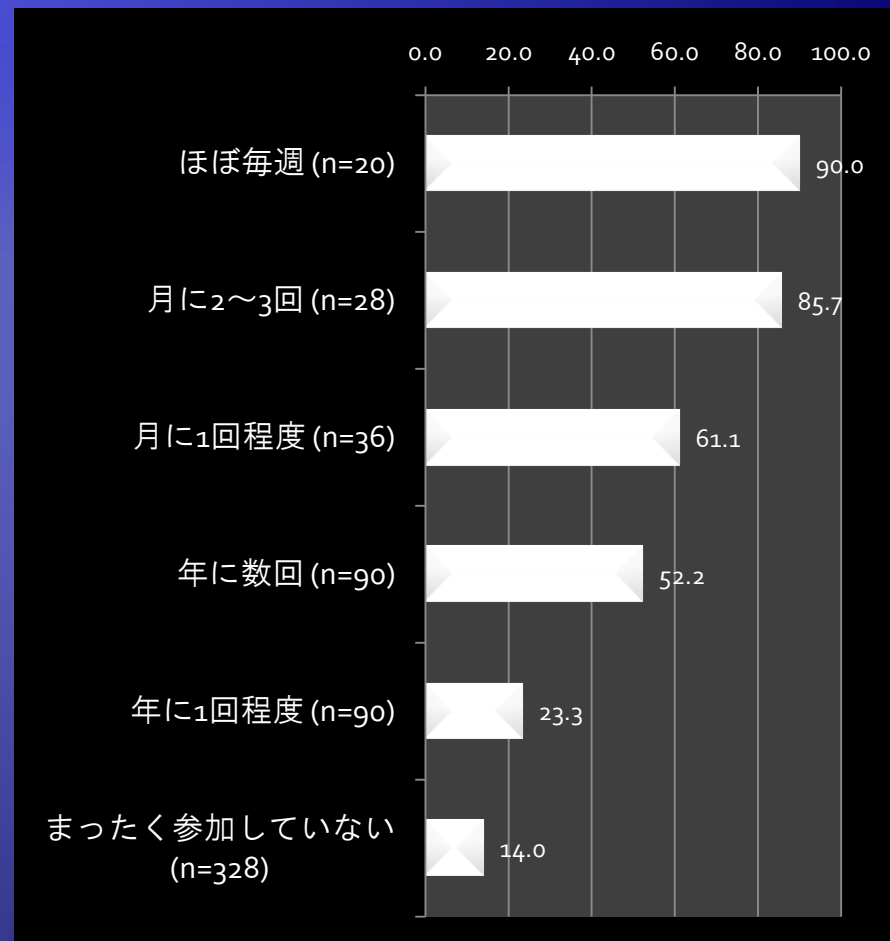
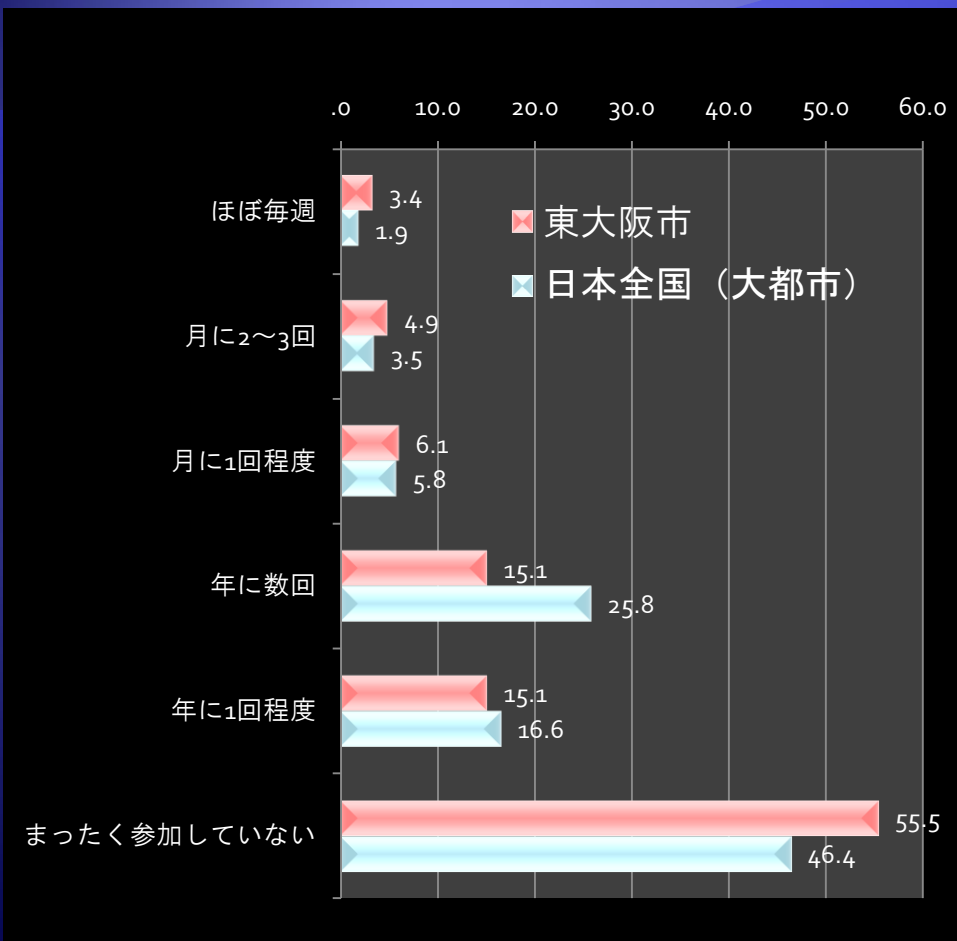
➤ 都市部に限定して比較しても、男性の若年・中年層や女性の参加率が低い。

ボランティアの種類別比較（％）



➤ 自然、スポーツ・文化、高齢者を対象とした活動で、全国大都市レベルより低い。

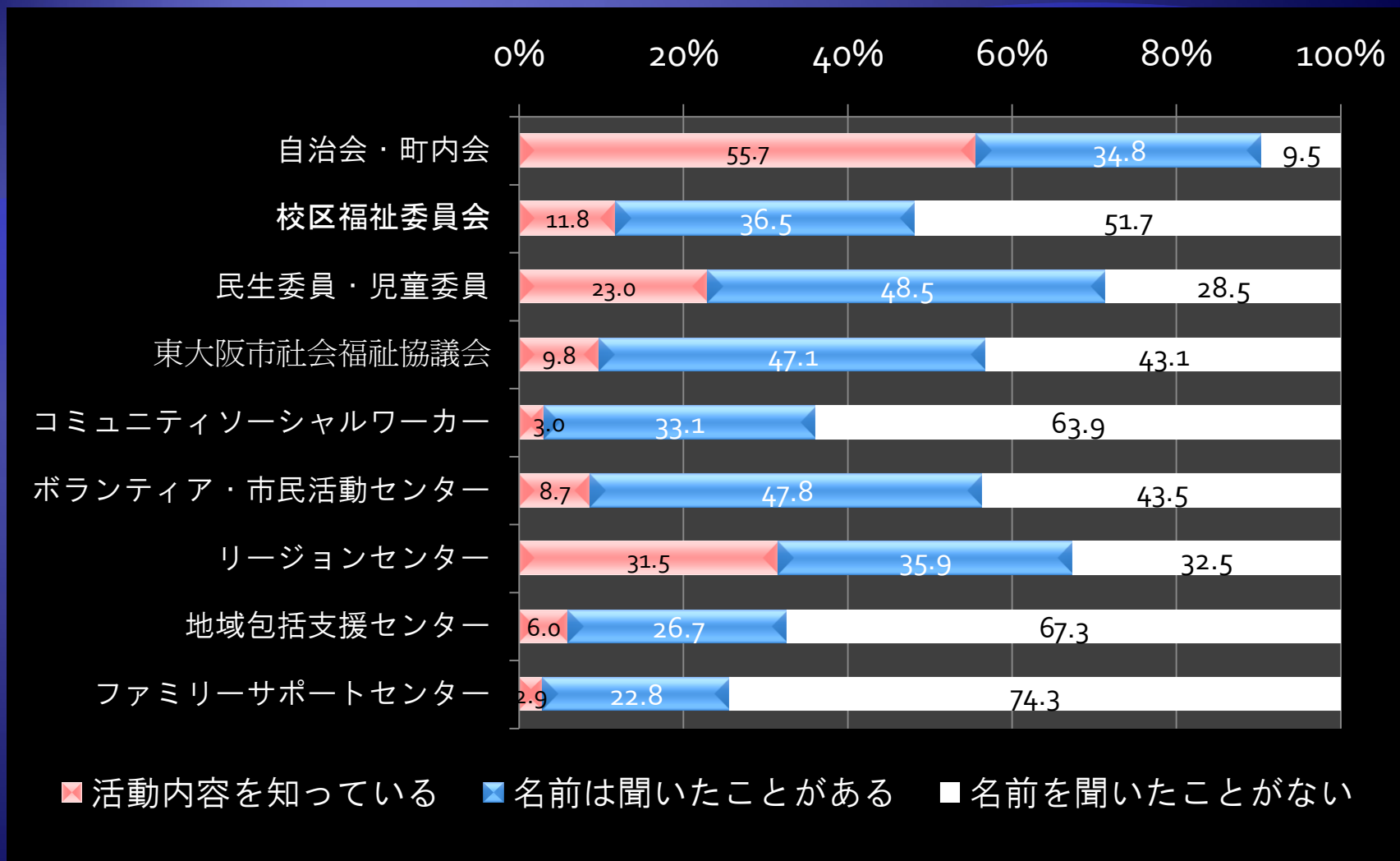
参考：町内会参加頻度とボランティア経験 (%)



町内会参加頻度

町内会とボランティアの関連
(東大阪市)

地域福祉に関わる組織の市民認知度

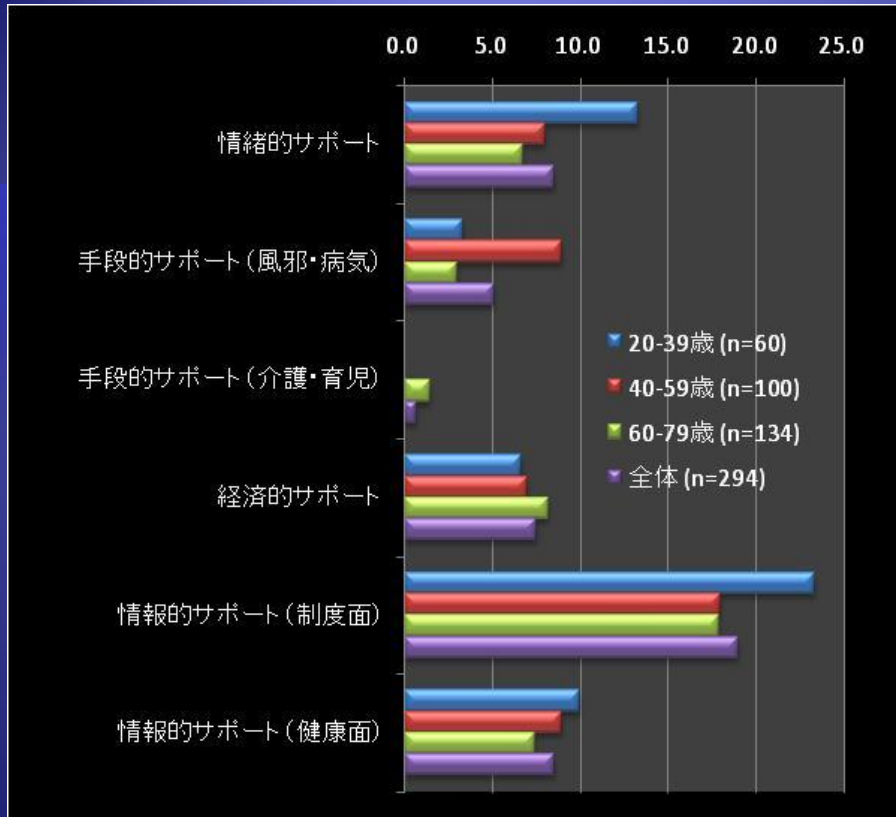


▶ 社会福祉協議会やボランティア・市民活動センター、校区福祉委員会の認知度はまだまだ低い ²⁶

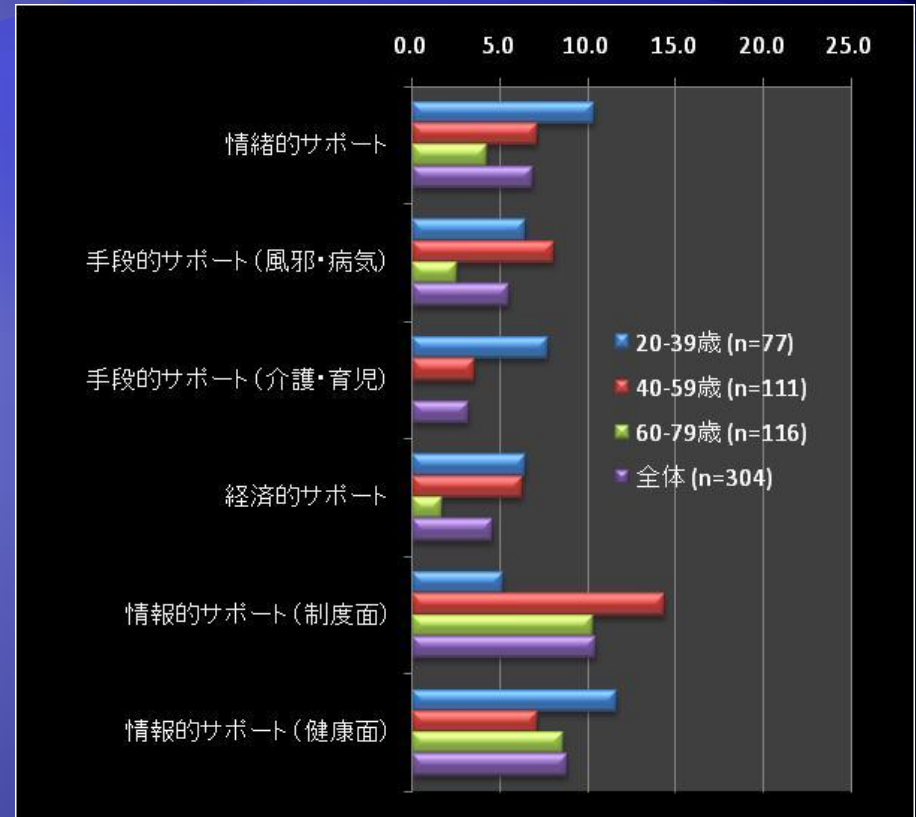
生活問題の種類

生活問題の種類	調査項目
情緒的サポートの不足	悩みや心配事があった時に、相談にのってくれる人がいなかった
手段的サポート(風邪・病気)の不足	風邪・病気・ケガをした時に、用事を頼める人がいなかった
手段的サポート(介護・育児)の不足	介護や育児で疲れた時に、手助けしてくれる人がいなかった
経済的サポートの不足	経済的に困った時に、お金を支援してくれる人や機関がなかった
情報的サポート(制度面)の不足	制度や法律の情報を知りたい時に、どこに問い合わせればよいか分からなかった
情報的サポート(健康面)の不足	心身の不安を感じた時に、どこに問い合わせればよいか分からなかった

生活問題



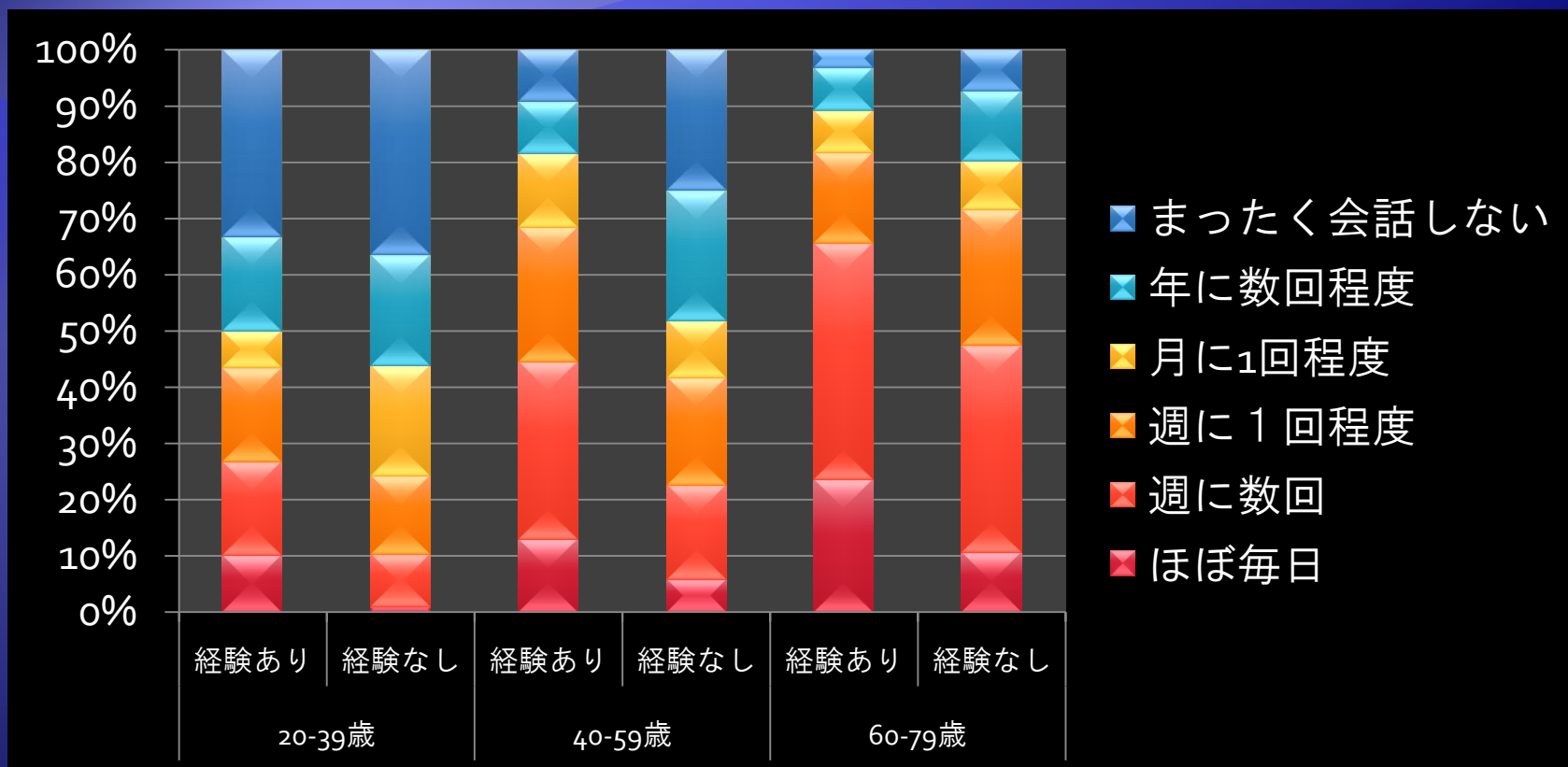
男性



女性

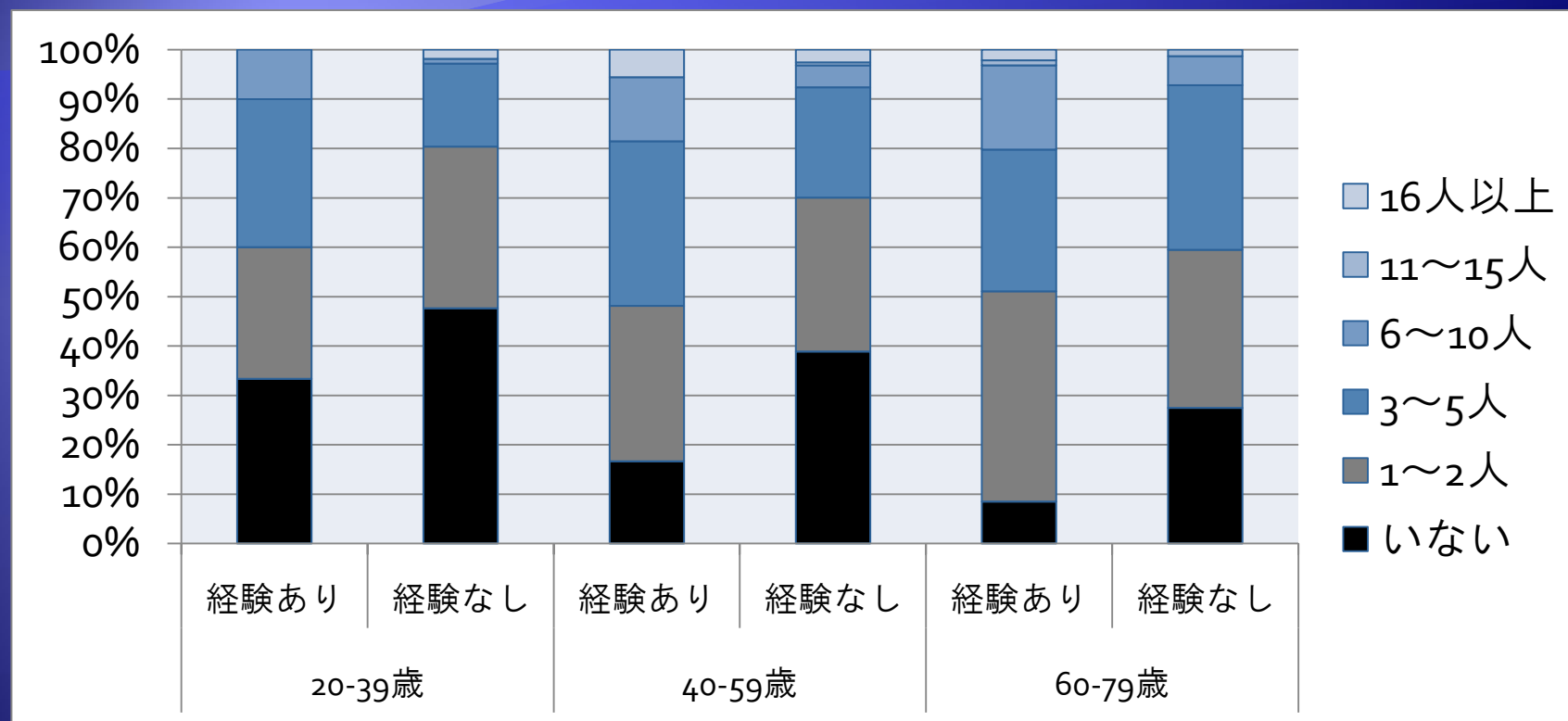
➤ 情報面や情緒面のサポートの不足が目立つ。意外に若年層で問題を抱えている割合が高い。

ボランティア経験者と未経験者の違い 【両隣の人との会話頻度】



➤ ボランティアをすることによって、近隣との会話頻度が増す。

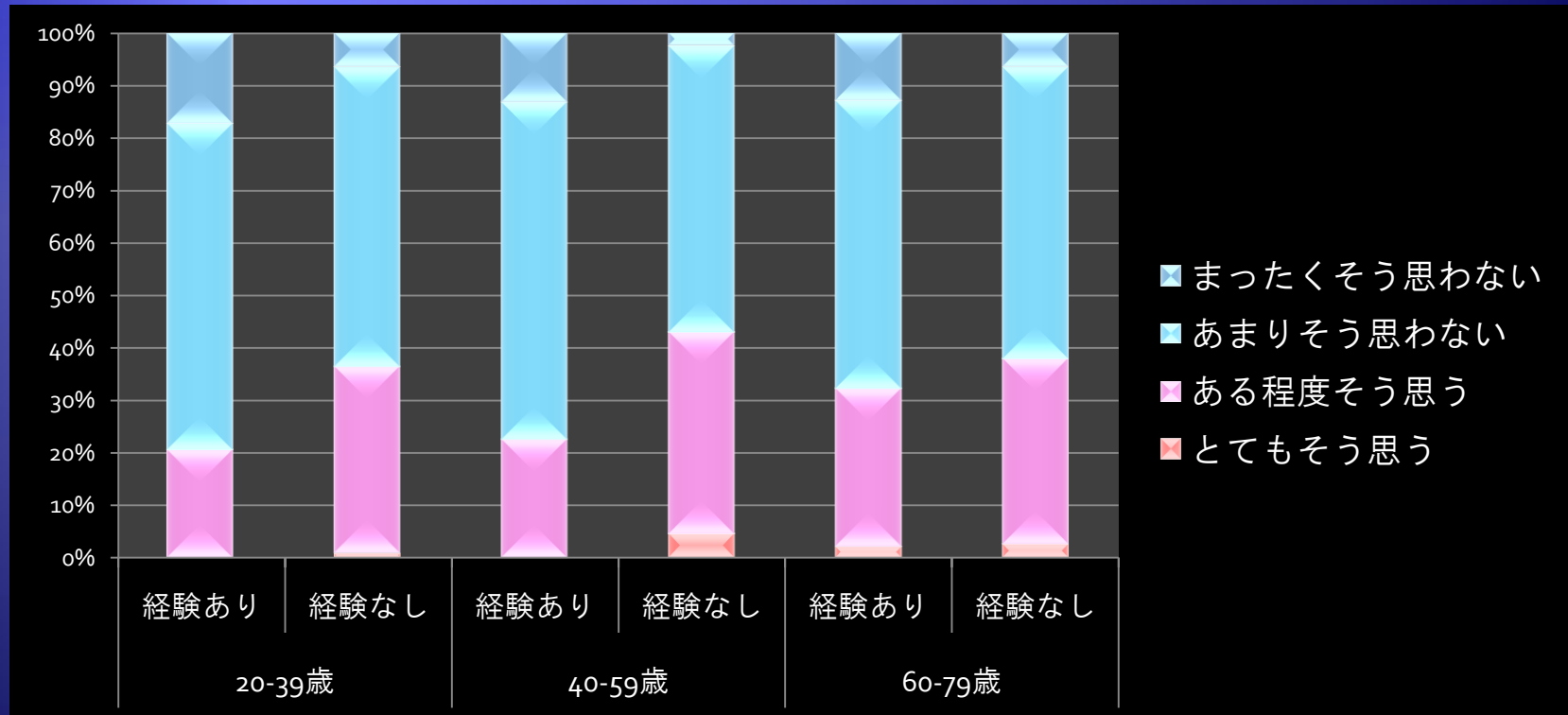
ボランティア経験者と未経験者の違い 【相談できる近隣の人の数】



➤ ボランティアをすることによって、相談できる近所の人の人数が増える。

ボランティア経験と「行政任せ」意識

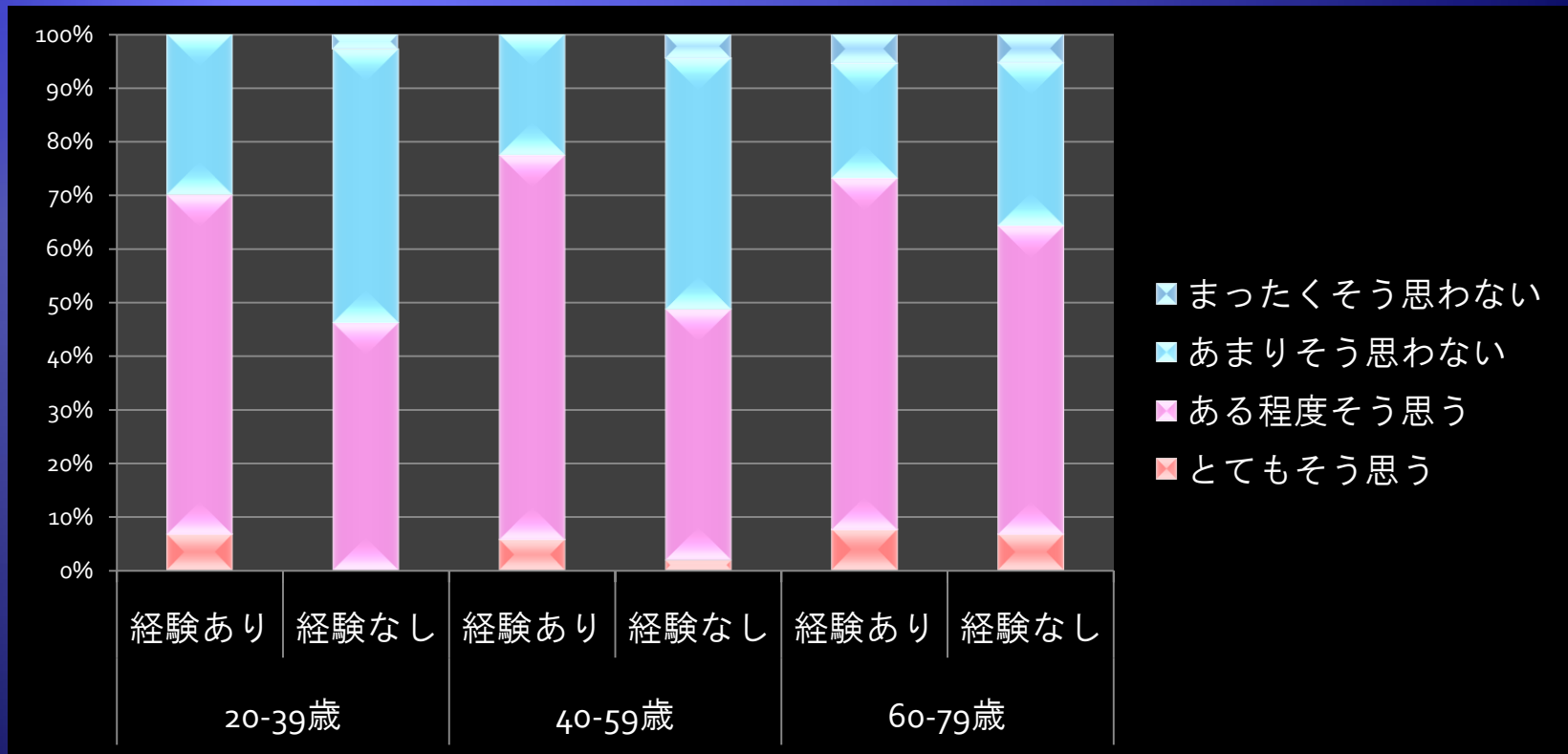
「税金を払っているのだから、地域のことは全て行政に任せてしまえばよい」



➤ ボランティア経験は「行政任せ」意識を減少させる。

ボランティア経験と「住民主権」意識

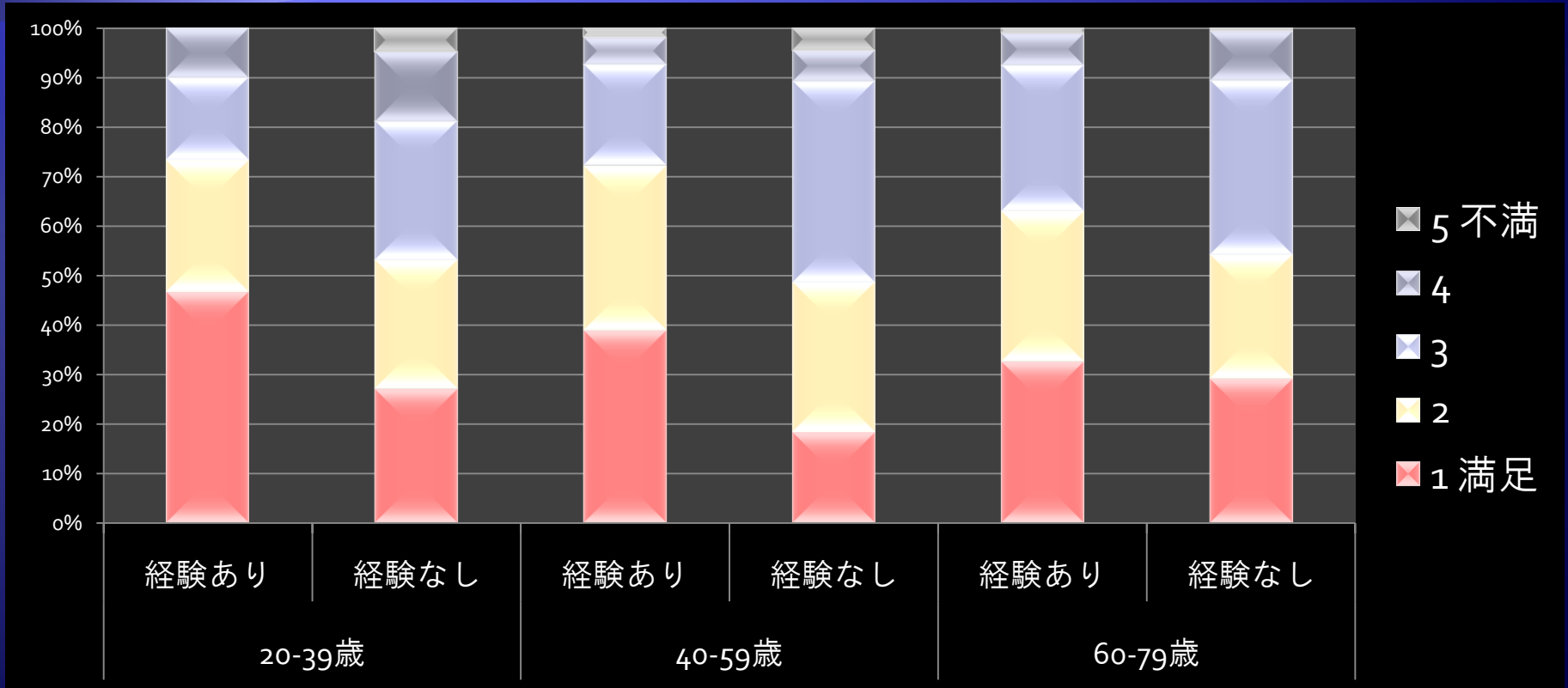
「苦労や負担があったとしても、自分たちの地域のことは自分たちで決めていきたい」



➤ ボランティア経験は、住民主権意識を高める。

ボランティア経験と「地域満足度」

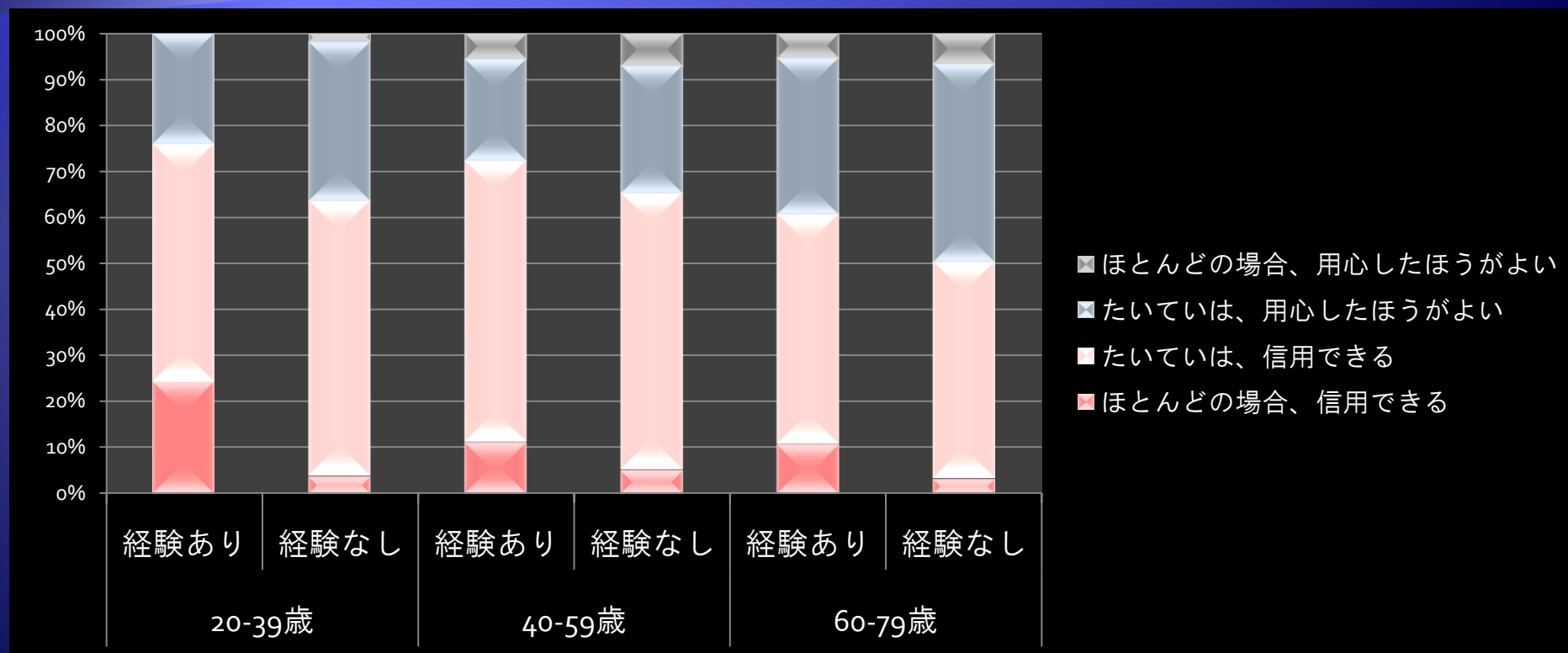
「住んでいる地域に満足していますか？」



➤ ボランティア経験は、地域満足度を高める。

参考：ボランティア経験と「人への信頼感」

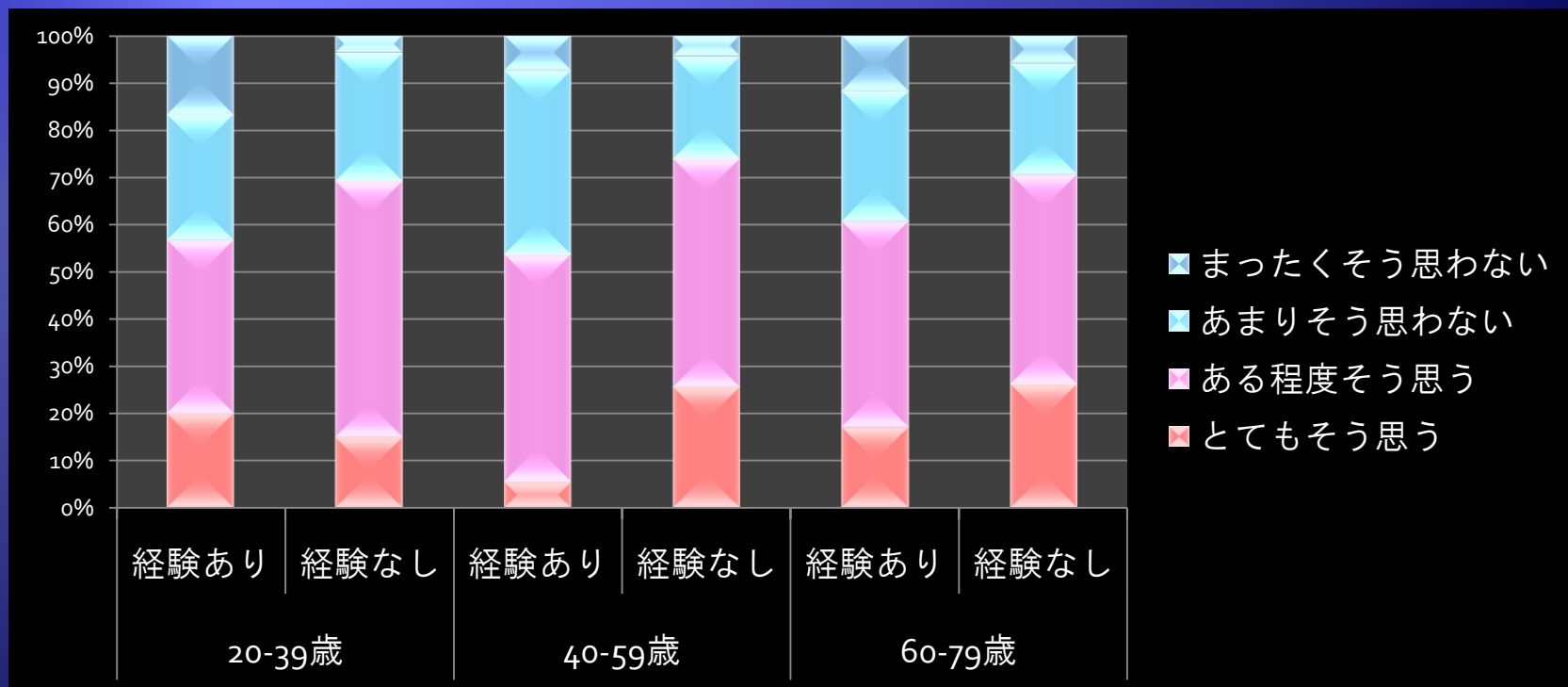
「一般的に、人は信用できると思いますか？」



➤ ボランティア経験は、人への信頼感を高める。

参考：ボランティア経験と「政治的有効性」感覚

「自分のようなふつ々の市民には、行政のすることに対して、それを左右する力はない」



➤ ボランティア経験は、政治的有効性感覚を高める。

参考： χ^2 乗検定の結果

両隣との会話頻度				相談できる近隣の人の数			
	χ^2 乗値	自由度	有意確率		χ^2 乗値	自由度	有意確率
20-39歳	10.370	5	.065 +	20-39歳	10.574	4	.032 *
n	137			n	137		
40-59歳	16.419	5	.006 **	40-59歳	13.732	5	.017 *
n	210			n	211		
60歳以上	11.676	5	.040 *	60歳以上	22.923	5	.000 **
n	245			n	247		
行政任せ意識				政治的有効性感覚			
	χ^2 乗値	自由度	有意確率		χ^2 乗値	自由度	有意確率
20-39歳	4.882	3	.181	20-39歳	7.766	3	.049 *
n	136			n	137		
40-59歳	14.416	3	.002 **	40-59歳	13.074	3	.004 **
n	209			n	211		
60歳以上	3.145	3	.370	60歳以上	4.978	3	.173
n	246			n	247		
住民主権意識				居住地域満足度			
	χ^2 乗値	自由度	有意確率		χ^2 乗値	自由度	有意確率
20-39歳	11.498	3	.009 **	20-39歳	5.735	4	.220
n	136			n	137		
40-59歳	14.597	3	.002 **	40-59歳	12.669	4	.013 *
n	209			n	212		
60歳以上	2.379	3	.498	60歳以上	2.280	4	.684
n	244			n	243		

- 統計的検定の結果が有意なので、母集団（東大阪市民）に対して一般化できそうである。

社会調査のまとめ

- ① 東大阪市は、日本全国の大都市と比較して、ボランティア経験者が少ない。経験率を3割から4割に増やすことが課題か。
- ② 地域福祉に関わる組織の市民認知率（「活動内容を知っている」割合）は、10%前後と非常に低い。まずは、市民に知ってもらうことが課題だろう。
- ③ 各種の生活問題を訴える割合は、若年層でも意外に高い。近隣との疎遠さが要因か？
- ④ ボランティアは、無償マンパワーの提供だけでなく、近隣関係や各種の生活意識を良い方向に改善する効果がある。

各班がFWで把握した課題

第1班：ボランティア連絡会

- 担い手の固定化、高齢化
- 市内に135あるボランティア団体のうち、連絡会に参加するグループが約50団体から30団体に減少中
- 今後、連絡会に加入することのメリットを明確にし、ボランティア団体間の連携を強化することが必要ではないか

第2班：CSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）

- 2中学校区に1人配置（つまり市内に13名配置）されているCSWの認知度が低い
- 相談窓口を市内に複数設置しているが相談に来る人が少ない
- 問題の内容によっては専門機関との連携が難しい場合もある
- 今後、CSWの認知度を高め、市民が気軽に相談に来れるようにすることが必要だろう

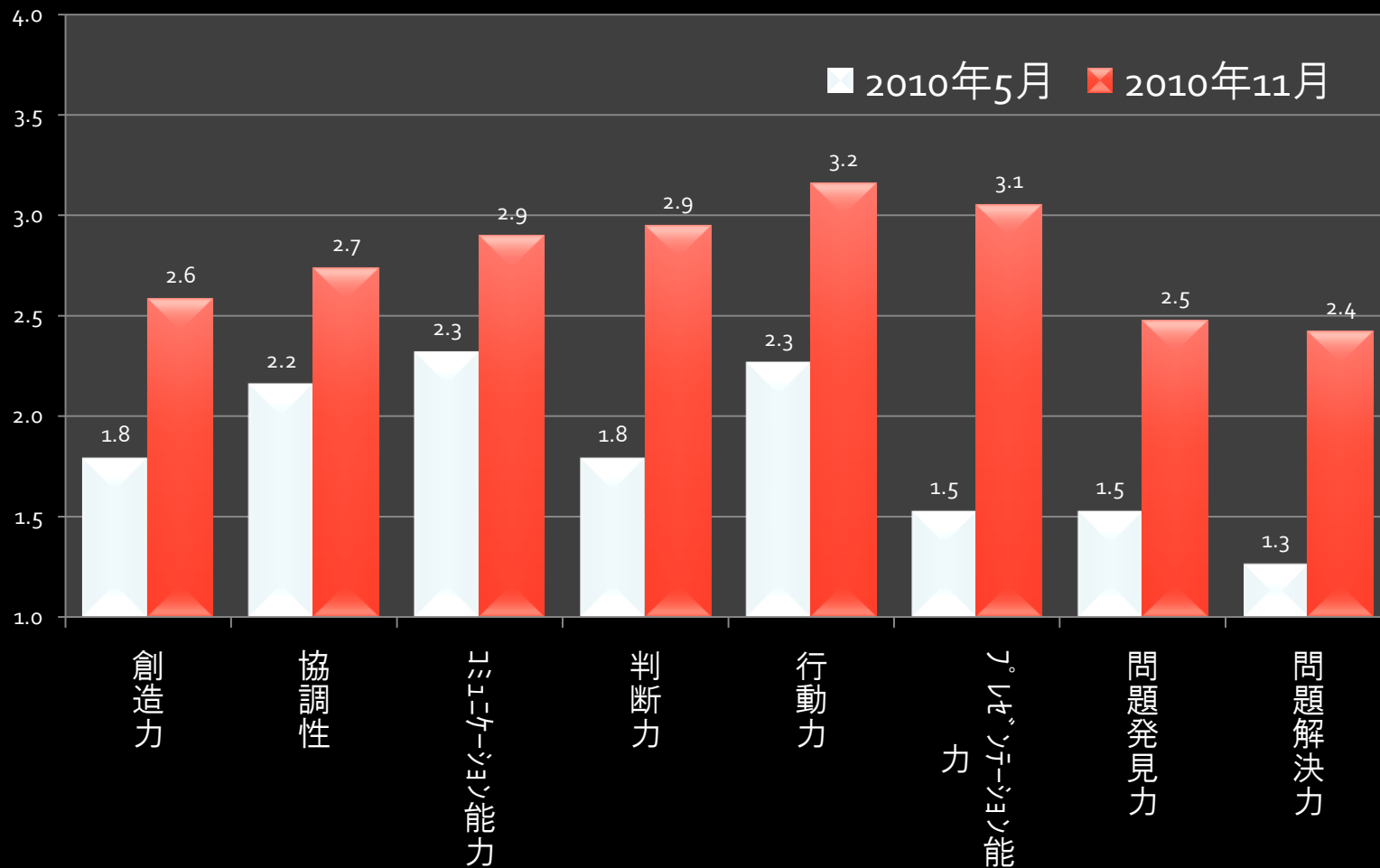
第3班：ボランティア・サロン

- 参加者の固定化・高齢化
- 一部の人に、企画・立案・準備の負担がかかっている
- 事業内容のマンネリ化
- 今後、若い学生も参加してアイデアを出し、イベントの内容を工夫していくことが必要だと感じた

第4班：小地域ネットワーク活動

- 中心的に活動している方の多くが、自治会や女性部会に所属する中高年の方
- 公民館など場所や設備の確保が難しい
- 喫茶活動の利用者が、高齢女性に偏っている
- 活動を定期的に行っている校区が45校区中3つと少ない
- 先進的な事例校区を紹介し、活動する校区を増やしていくことが望まれる。高齢男性にも利用してもらおう工夫が必要である

ゼミ生の変化



● 創造力

- 最初は、全く思いつけなかったボランティアや市民活動の企画・アイデアが色々な研修会や会議に参加するうちに思いつくようになった。しかし、まだ実現可能性の高いものかどうかの判断はできない。

● 協調性・コミュニケーション能力

- 当初は自分たちから話し出すことができなかったが、学外の多くの人との出会いによって、積極的に自分の意見を表に出すことができるようになった。班ごとのミーティングや活動、障害をもつ方へのボランティアの経験から、相手の立場に立って物事を考えられるようになりつつあると感じる。

●判断力・行動力

- フィールドワークの集合時刻を厳守することができるようになった。欠席時の連絡、班メンバーや先生への「ホウ（報告）レン（連絡）ソウ（相談）」など、問題が生じた時に適切な行動をとることができるようになりつつある。

●問題発見・解決力

- 大学の外に出て活動し、現地の人々との交流や会議を通じて、座学だけでは気付かなかった問題のリアルさや、問題解決の難しさを知った。
- 今年度は課題発見に重点を置いたため、問題解決力の向上は、来年度以降の課題である。小さなことから少しずつ前進したい。

今後の課題

- 今年度は、「ボランティア・市民活動センター」の協力のもと、既存の組織に参加・取材し、現状や課題を把握する側面に重点を置いた。
- 来年度以降は、少しずつ企画段階から入らせていただいて、新2年生（13名）と新3年生（27名）の力を集結し、課題解決に取り組みたい。

※ 現在検討中のアイデア ※

喫茶活動に高齢男性を呼び込む企画

- 一人暮らし高齢者のための喫茶活動で、男性の参加率を上げるために、高齢男性でも簡単にできるゲーム（将棋・囲碁・オセロなど）を考え、準備し、喫茶活動に取り入れてもらう。

現在作成中の地域資源マップの有効活用

- Dリージョンと協力して作成している地域資源マップを完成させ、地域で行う散策活動や住民同士の交流活動に利用してもらう計画を立てる。

障がい者と健常者の方の交流活動

- 夏休み期間中の「ボランティア体験プログラム」で訪問した障害者の方のための就労支援施設と協力して、障害者と健常者の交流を促進するスポーツ活動を開催する計画を立てる。

子育て支援活動への参加

- 来年度、ボランティア・市民活動センターの「子育て支援」活動にも参加させていただくことになったので、現状と課題を把握した後に、子育てに関わる問題解決に向けて取り組む。

現在作成中の各班のパンフレットの有効活用

- 2011年4月をめどに作成する各班のパンフレットの効果的な活用方法を検討する。

参考文献

坂本 文武,2004,『NPOの経営』 日本経済新聞社.

園田恭一他編,2008,『ソーシャル・インクルージョンの社会福祉』 ミネルヴァ書房.

桜井 政成,2007,『ボランティアマネジメント—自発的行為の組織化戦略』 ミネルヴァ書房.

和田 修一他編,1996,『高齢化とボランティア社会』 弘文堂.

Salamon, Lester, M., 1995, Partners in Public Service, The Johns Hopkins University Press.

(大野哲明ほか訳, 2007, 『NPOと公共サービス』 ミネルヴァ書房.)

関嘉寛, 2008, 『ボランティアからひろがる公共空間』 梓出版社.

後房雄, 2009, 『NPOは公共サービスを担えるか』 法律文化社.

松尾匡ほか編, 2005, 「アソシエーション的發展と脱アソシエーション的変質」 『市民参加のまちづくり』 創成社.

謝辞

日本版General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学JGSS研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。